

激動の経営

新生産ライン

2022年4月、中興化成工業の新たな生産ラインが動きだす。宇都宮工場（栃木県鹿沼市）の新生産棟「WEST WING」だ。数あるフッ素樹脂製品

中興化成工業

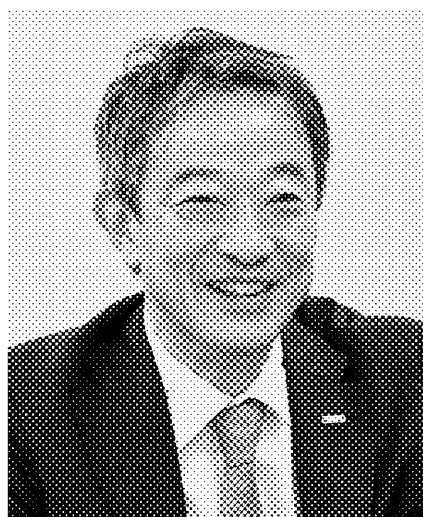
④

のラインアップのうち、成長分野である半導体関連や医療機器に向けたチューブ類や押出成形品を製造する。

社長の庄野直之は「土地と人に恵まれて工場を拡張できた」と喜ぶ。生産能力の向上に加えて、施設面積の3割ほどを将来の機能拡張に割り当てた。

庄野が言う「土地と人」には、人が根ざす場所との意味が込められる。宇都宮は1998年に長崎と横浜（99年閉鎖）の生産を一部移管し稼働した。

土地・人に恵まれ拡張



長崎からの出向者らを中心に奔走するも、生産確立には時間がかかった。だが「いまは地元採用者がコアになった。20年をかけて根付いたことで増強できた面もある」と、土地の強さに期待をかける。

人材面で、庄野が大事にするのは誇りだ。「あそこのお子さんは中興化成に就職したらうれしい」との評価を地域で得ることが、優秀な……

課題解決の精神、市場開拓

人材の獲得と定着につながる。家族の存在も重視する。管理職登用者には、家族とともに昇進を祝う場を設ける。社長が同席することで、家族に対する誇りを高めてもらう。指定した家族の誕生日にプレゼントを贈る制度も始めた。社長名のメッセージを添えて、社員を支える家族に会社として感謝の気持ちを伝える。

供与責任果たす
フッ素樹脂の需要は増しており、設備面ではさらなる投資を見据える。半面で原料調達

では「タイトな1年と覚悟する」（庄野）など厳しい経営環境もある。だが「歩留まり改善で乗り切れる部分がある。知恵を使う」ことで供給責任を果たす。

炭鉱を礎に生まれた中興化成。国内のフッ素樹脂の開拓者として苦難の創業期を耐え抜いて昇華した。

「顧客から『こんなことができないか』と声をかけてもらってきた。当社はそれで伸びてきた。スター（製品）を育てる」と、庄野は意欲を見せる。創業以来の課題解決の精神を発揮し、中興化成は新たな需要に向けて市場を掘り進める。

（この項おわり。西部・三舌能徳が担当しました）

（敬称略）

（敬称略）